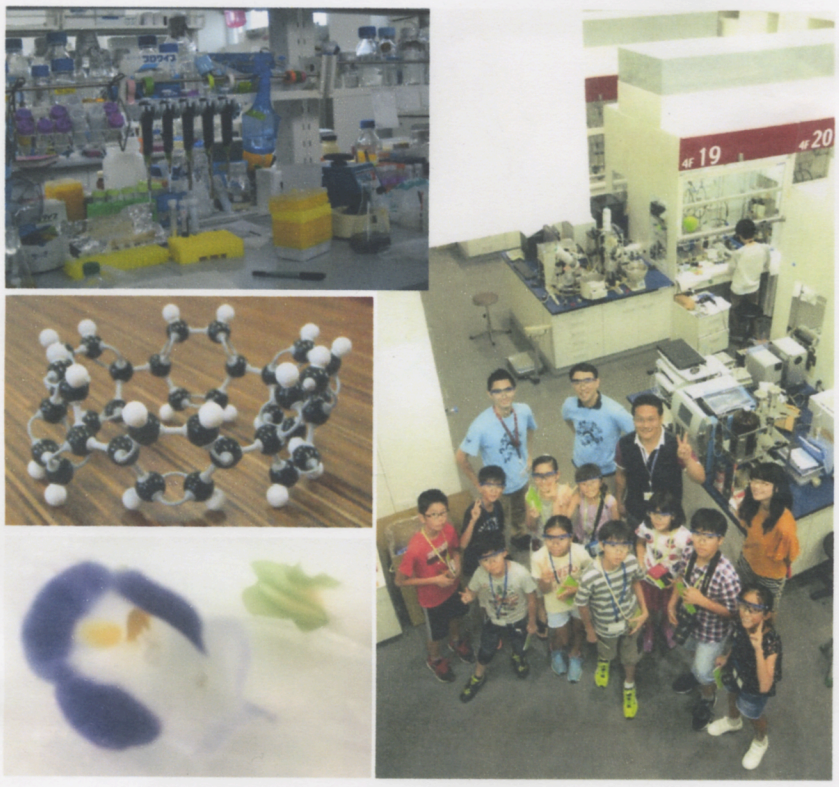
科学者をたずねて新聞

4年生
森下紗那

研究はおもしろい!!



みんなで研究室を取材しました!

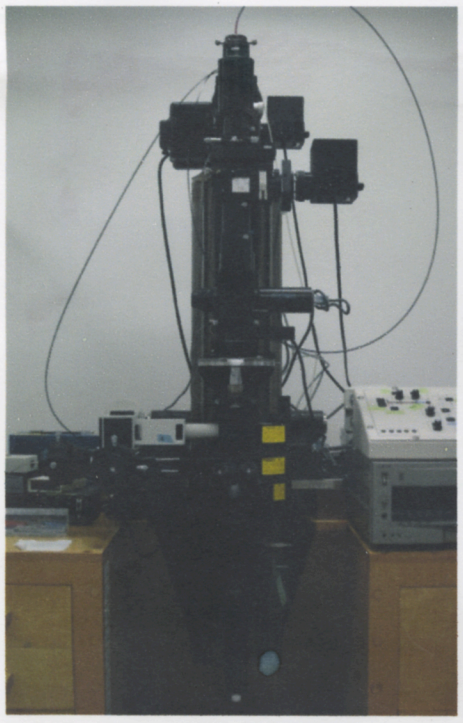
みなさんは「科学者」と聞いてどんな人を思い浮かべますか。私は、エジソンみたいに今までなかった物を生み出して、私たちの生活を便利にしてくれる人を科学者だと思っていました。

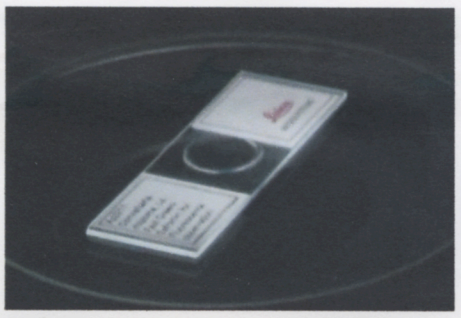
科学者の話

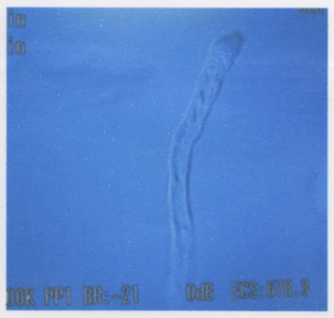
名古屋大学で二人の科学者から話をうかがいました。

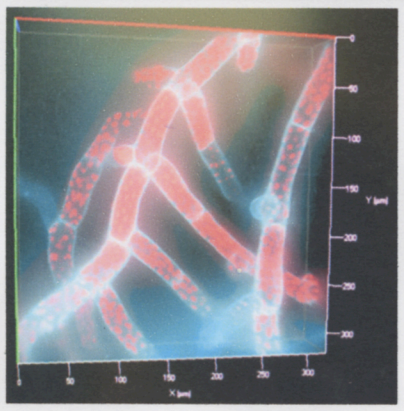
一人目は、ミクロよりさらに小さなナノの世界にある粒同士をくっつけて新しいものを作る伊丹先生。伊丹先生は、小さいときからスポーツカーが大好きで、ある日新聞で「石油がなくなるかもしれない」という記事を読んで、石油がなくなったら大好きなスポーツカーに乗れなくなると思い、ガソリンに代わるものを作る科学者になりたいと思ったそうです。伊丹先生の「ドラえもんは、科学の教科書だよ」という言葉も印象的でした。ドラえもんに出てくる「どこでもドア」のようなひみつ道具がどうしたら作れるか、というものが研究のもとになっているそうです。

二人目は、めしべの先に花粉が受粉するしくみを初めて明らかにした東山先生。









ITbM Institute of Transformative Bio-Molecules
トランスフォーマティブ生命分子研究所

ナノの世界が見えるけんびきょう

高校生のとき、試食の勉強中に虫が入っていることに「虫などの人間が作れないものはどんなしくみになっているのだろう」とご問に思い、それを研究する科学者になりたいと思ったそうです。

二人の科学者になりたいと思ったきっかけは、私たちにも身近で面白いものだと感じました。

研究は、「知りたい」という強い思いや好奇心から生まれ、何度も失敗をくり返しながらも、発見にたどりついたときの喜びやうれしさがあるからやめられないというお話も心に残りました。

二人の科学者は、すぐに使えるものではなく、生活を豊かにするものを作るためのしくみを研究していました。いつか世界中で役立つことを願いながら。

伊丹先生(左)と
東山先生(右)